

# 福利厚生レポート

企業と社会をつなぐ“プロボノ” Vol.1【2019年1月発行】

お問合せ先  
TEL:03-5533-5802  
E-mail: fukurikosei@nissay.co.jp

## “プロボノ”による企業の社会的価値創出、人材育成と活躍促進における効果

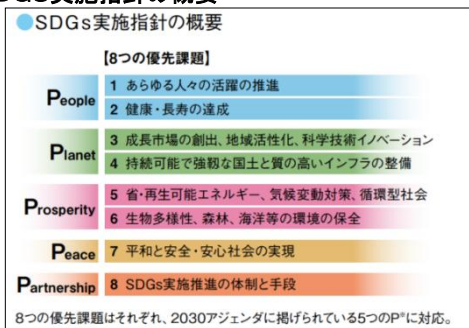
認定NPO法人サービスグラント

○国連の掲げるSDGsの推進もあり、社会の課題を解決する「社会的価値」の創出が企業に求められる中、世界で最も少子高齢化が進む日本では、企業の「働き方改革」などを通じた人材活用に焦点が当たっています。  
○近年、社外におけるスキルアップの場、社会活動機会の一つとして“プロボノ”という社会人による社会的課題解決に向けたボランティア活動への注目が急速に高まっています。

### 1. 求められる企業の「社会的価値」の創出

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016年から2030年までの国際目標です。2030アジェンダでは5つのP：人間、地球、繁栄、平和、連携を重要分野としています。日本では2030アジェンダを【8つの優先課題】（図1）に再構成しました。課題の一つである「あらゆる人々の活躍の推進」については、一億総活躍社会の実現に向けた「働き方改革」において、企業の多様な人材活用が解決策として取組まれており、社会の課題解決に貢献する「社会的価値」創出として期待されています。“プロボノ”はその多様な人材活用に寄与する仕組みとして注目されています。

【図1】SDGS実施指針の概要



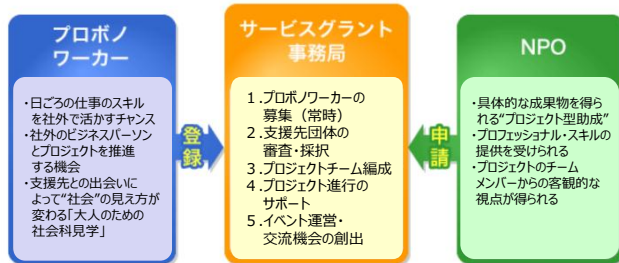
出典：外務省「持続可能な開発のための2030アジェンダと日本の取組」2017年3月

### 2. 社会と企業のニーズをつなぐ“プロボノ”

「プロボノ」とは、「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉で、【社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門的知識を生かしたボランティア活動】を意味します。認定NPO法人サービスグラントでは、様々なスキルを持った社会人5名前後でプロジェクトチームを編成し、あらかじめ定めた期間内で、社会的課題解決に取り組む非営利組織（NPO・地域活動団体）等を支援しています。（図2）

多様化する社会的課題と向き合い、自分の所属する会社以外の社会と関わることにより広がる視野、日常の業務では得られない発見など、プロボノ活動は個人個人のスキルアップや働き方の改善などにもつながる場として世界に広がっています。日本におけるプロボノの草分けとも言えるサービスグラントでは2018年12月現在で4,600人を超えるビジネスパーソンが参加登録をしています。

【図2】プロジェクト型助成



### 3. 「働く目的」の変化

公益財団法人日本生産性本部と一般社団法人日本経済青年協議会の発表によると、2018年度新入社員1,644人を対象とした「働くことの意識」調査結果では「仕事を通じて人間関係を広げていきたい」が第1位、以下「社会や人から感謝される仕事がしたい」「ワークライフバランスに積極的に取り組む職場で働きたい」「どこでも通用する専門技術を身につけたい」と続いています。（表1）

一方、会社の選択理由としては「自分の能力、個性が生かせるから」が第1位となり、「会社の将来性」は下位にとどまりました。近年、働くうえでワークライフバランスを重視する傾向は続いています。また、「働き方改革」にも伴い、会社に頼らず技能を磨き、広く社会の中において自分で働き方を決めていく流れはますます強まるものと思われる。

【表1】就労意識

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合(%) ( )内は前年度比

順位	働く目的	割合(%)
1位	仕事を通じて人間関係を広げていきたい	94.1 (+1.7)
2位	社会や人から感謝される仕事がしたい	92.9 (+0.4)
3位	ワークライフバランスに積極的に取り組む職場で働きたい	92.6 (+0.8)
4位	どこでも通用する専門技術を身につけたい	91.2 (+0.6)

出典：公益財団法人日本生産性本部／一般社団法人日本経済青年協議会  
「平成30年度 新入社員『働くことの意識』調査結果」2018年6月

### 4. 多様な働き方・人材の受け入れに向けて

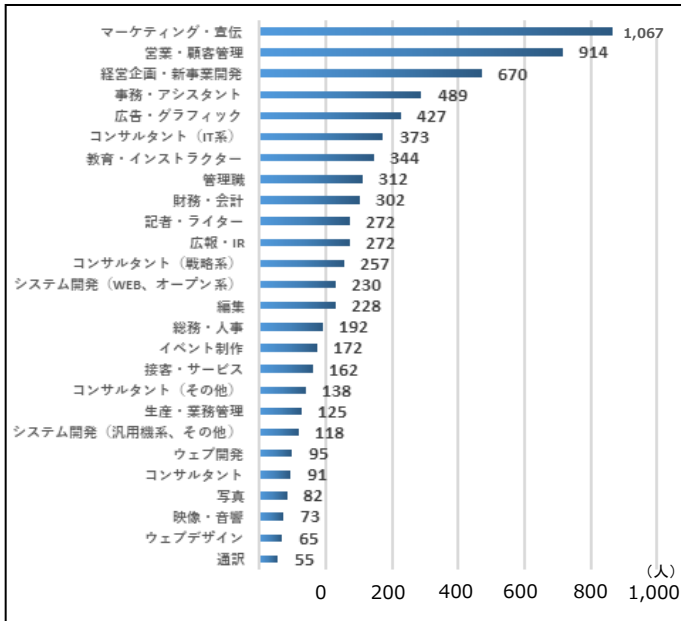
多様化していく働き方に企業として対応していくには、多様な人材の能力が十分に発揮される環境の整備といった土壌づくりが重要です。プロボノ活動では、業種・業界、世代や価値観も異なるビジネスパーソンと関わることで、柔軟なコミュニケーション能力の向上に繋がるといわれています。また、非営利組織が取組んでいる各種の社会問題に一定期間まとまったコミットをし、社会の問題をより身近に感じることによって、社会に対する見え方の変化があら

(次ページに続く)

(前ページより続く)

われるかもしれませんが。こうした様々な効果が期待できるプロボノは、ボランティアでありながら仕事への多大なフィードバックが期待され、生きたケーススタディの場になるとして企業のCSRや様々な職種の人材育成機会としても注目され、リピーターも増えています。(図3)

【図3】職種別登録数(2017年度)※複数回答あり



出典：認定NPO法人サービスグラント「サービスグラント年次報告書2017-2018」

## 5. 社会活動がもたらす自己価値の認識

プロボノ活動に参加することで、具体的にはどのような変化があらわれるのでしょうか。実際にプロジェクトに参加された方からは、次のような感想が出ています。

### <参加者の感想>

「プロボノ活動は自分が取組んでいる仕事の価値を外から見直すきっかけになった」 (40代 コピーライター)

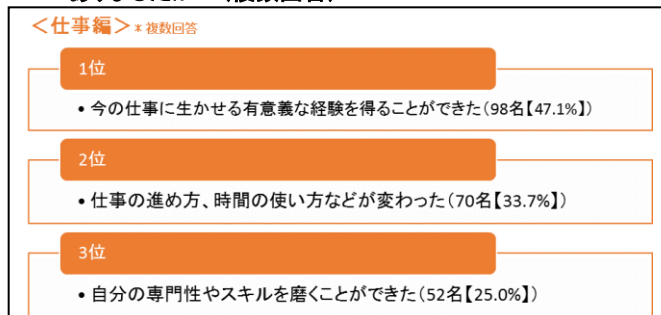
「プロボノでやったことが本業の方にも活かせる、相乗効果があった」 (40代 IT企業勤務)

「会社や私生活で出会うことのない人や、多様な考え方に触れることができた。そういった人と重ねたコミュニケーションの力は、今後仕事上でも活きると思う」

(30代、化学会社勤務)

プロボノで得た経験とスキルは、本業に良い影響をおよぼすだけでなく、自身が携わっている仕事や会社の意義を再認識できるといった声も多く見受けられています。(図4)

【図4】サービスグラントに参加したことで、どのような変化がありましたか？(複数回答)

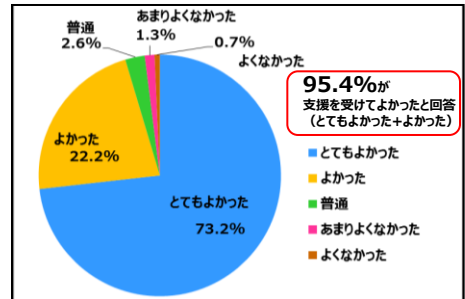


出典：認定NPO法人サービスグラント「プロボノセンサス2017」

## 6. 社会課題の解決に寄与する具体的な効果

一方、プロボノワーカーによる支援を希望し、実際に受けたNPO・地域活動団体等も、これまでその多くが高い満足感を得ています。サービスグラントが2017年度に支援した153団体に対して実施したアンケートでは、全体の95.4%が「支援を受けてよかった」と回答しています。(図5)

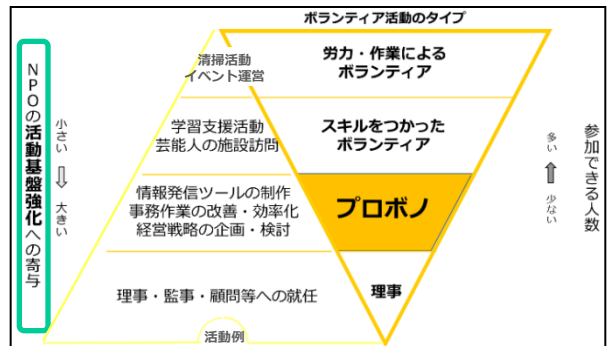
【図5】今回サービスグラントの支援を受けて、全体として、よかったですと思いますか？



出典：アンケート(2010～2017年6月累積データ)より認定NPO法人サービスグラント作成

プロボノ活動は労力の提供といった、一般的スキルによるボランティアに比べ、自らの仕事で培った専門性を生かすというところに特徴があります。一般的なボランティアが団体の活動の推進を支援するのに対して、プロボノは組織の内部に一時的に加わり運営基盤の強化を支援するため、限られた期間ながらも長期的な活動推進効果をもたらすことができます。(図6)

【図6】「企業の社会貢献活動」の再整理



出典：認定NPO法人サービスグラント「プロボノに関する導入資料」

ボランティア活動というと、一般的にはイベントや作業のお手伝いというイメージがあるかもしれませんが、プロボノは具体的な成果物の提供を目指すプロジェクト型の活動であるため、目標を明確に定めて参加したメンバー全員でその達成に向けて遂行していきます。そういう部分では参加しやすいボランティアであるといえるでしょう。

また、先述のとおり、プロボノは、まさに「運営基盤の強化」を支援する専門性に基づいた課題解決プロジェクトであるため、支援する団体が抱えている問題だけでなく、その団体が取組む社会的課題に対して、大きな波及効果を生むことができるという醍醐味があります。プロジェクトが終了した時、自分が支援した団体の課題が解決して感謝され、自らの成長も実感できる。それがプロボノを通じて社会活動に参加する楽しさなのかもしれません。

支援を受ける団体だけでなく、企業や個人にとっての新しい可能性を発見できる“プロボノ”。企業の社会的価値創出、これからの社会に柔軟に対応できる人材の育成に向けた推進力として、活用の可能性はますます広がっています。